

poco a poco

パラグアイ便り 2024/04/01 Número14

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【秋を迎えました】

今年の夏の異例の暑さは、パラグアイ人でさえ驚くほどでした。この暑さは果たして落ち着くのだろうか心配していましたが、ピークは越えたようです。

季節は秋に変わろうとしているのに、最高気温は40°Cを超え、最低気温でも20°C後半、体感温度が50°Cを超えるとニュースで取り上げられるような日々が2週間ほど続きました。何もなくても常に大量の汗が流れ、めまいがしました。その期間、私が住んでいる地域では、各家庭での冷房の過剰使用により、いつも以上に頻繁に停電が起こりました。学校での停電も例外ではありませんでした。もともと各教室に冷房はありませんが、暑さを和らげるための唯一のアイテム“扇風機”も教室によっては十分に機能しません。そのような状況で停電になると、教室は真っ暗闇の蒸し風呂に変わります。子供たちが集中して学習に取り組めるような環境とはほど遠いです。それどころか、熱中症のような症状を訴え病院に運ばれる子どもたちがいるほど、危険な状態です。光と涼しさを求めて、子ども達は椅子を運び、校内の一番大きな陰であるマンゴーの木の下へと移動しますが、大人でも耐え難い暑苦しさや息苦しさを常と感じずにはいられません。また停電に伴い断水も続きました。気候は人の力ではどうすることもできませんが、こんなとき“お金があったら、どれだけ子どもたちの力になれるだろうか”と、無力感を感じます。パラグアイの公立学校では、子ども達にとって必要な学習環境を整えるための財源を確保することが大変難しいのが現状です。ボランティア活動をする中で、幅広い知識や高い技術力、多くの経験や優れたコミュニケーション能力などを伴う様々な人的支援の必要性は日々感じますが、物的支援の必要性も頻繁に感じています。“お金があっても幸せになれない”なんて言葉を日本ではよく耳にしていましたが、それを断言できるのはある程度恵まれた環境に身を置いている人だけであると、今ならばはっきりとそう思います。もちろんお金があるだけでは幸せになることは難しいのかもしれませんが、お金があることで掴める幸せの数は計り知れないということも、身をもって経験しています。



マンゴーの木の下で
テストを受ける児童



iPhoneの気象情報(3月14日01:00)

【いつの間にか習得していたパラグアイ文化】

ある隊員の友人がパラグアイを訪れた際に、その方とお会いする機会がありました。その方が、私たちパラグアイ隊員のある行動を見て「すごい！それって、パラグアイの文化ですか？」と、質問されたのは“何でも分け合うこと”でした。私たちは無意識のうちに、飲み物や食べ物を次々と回して、分け合っていました。前号でも紹介したように、パラグアイにはマテ茶を回し飲みする文化があります。他の飲み物や食べ物なども、何でも分け合います。日本でも「一口食べる？」といった会話をするということもありますが、その質問をすることなく、「はい、どうぞ。」と、次から次へと自然に回すのです。私はその文化に温かさを感じています。心地良いと感じている文化が自然と身体に馴染んでいることに気づき、何だか嬉しく感じました。

私は日本のことが大好きですが、すべてが好きだとは言いきれません。今後も様々な国を旅したり、生活したりすることなどを通して、素敵だと思う文化や価値観などを吸収していき、自分の納得のいく生き方を見つけ楽しんでいけたらと思います。



隊員の友人に自分の活動について紹介する様子



訪れた隊員が撮影してくれた日常の様子

【ひとこと】

新年度が始まり、アクセル全開でボランティア活動に励む毎日です。2年目ということもあり、私自身のたくましさや図々しさが増した気がします。時に嫌われる勇気を持つことを迫られるときも多々ありますが、信頼できる人たちが確実に増えていることに深い感謝と心強さを感じています。

また、任期終了までの残り時間の少なさに対する焦りも感じ始めています。活動終了時の姿、そして自分が帰国した後の姿を思い描きながら、できることから着実に積み上げていこうと思います。



研修会で模擬授業を行いました



環境教育に関する授業を行いました